
『不老』か『不死』

迷鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『不老』か『不死』

【コード】

N3865P

【作者名】

迷鳥

【あらすじ】

一度は思ったことがある、そんな迷いを書いています。

キーワードは「幸せに迷いましょう」

(前書き)

読みにくい話となっています、ご了承ください。

あれは、私たちが中学生だった頃のことだ。

部活が休みだったこともあって、放課後の教室でのんびりと話していたらふと、こう言ったのだ。

「不老不死、てあるよね？」

……最初は何を言い出すんだ。と思ったが、よく考えたらこれが彼女のいつもどおりだったなと思った。

私がそうだね、と適当に返すと、

「欲しくない？ 不老不死。特にわたしは不死がいいな」

また突拍子もないことを言った。

漫画の読みすぎだよ、と言おうとした時、

「じゃあ、あげようか？」

私たちとは違う声が聞こえた。教室には私たち以外居なかった筈なのに。振り返り見ると、

「実はね、一つ持ってるんだ。『不老不死』」

妙な格好をした女の子がいた。制服じゃないし、多分年下ぽかったからそう表記する。

「それ本当！？」

聞き返された言葉に、

「うん。マジモンだよ」

女の子はあっさりと応えた。

「でもさ、さっき言ったように一つしかないの」

人差し指をピンと立てて女の子は言葉を続ける。

「だからさ、半分に分けてあげるね、『不老不死』を、『不老』と

『不死』に、どっちを選ぶかはアナタ達にまかせるから、決まったら言うて」

そして女の子は近くにあった机に座ろうと、後ろ向きに跳んだ時、

「わたし『不死』！」

「はう！？」

あっさりとした決めた言葉に着地を失敗してお尻を打っていた。

「いたた…えつと、アナタは『不死』でいいんだね？」

「うん！」

「じゃあ、アナタは『不老』ね」

私を指差して女の子が告げる。

いや、私は別に…と返すと、

「ダメだよ 片方だけ余らせるなんて」

パチン。そんな音と共に女の子は急に発光した。私は思わず目をつぶってしまったので、

「それじゃ、『不老』と『不死』を半分ずつね」

その声を聞いて目を開けた頃には。女の子の姿は見えなくなっていた。

いったいなんだったんだろう？ まさか本当に『不老』になったわけがないよね？

そう私が言って彼女を見たとき、

「ねえ…見て？」

彼女の首にはカッターナイフが刺さっていた。

かなり深いのだろう、傷口から赤い液体が溢れ出ているそれははた目に見ても分かる。即死ものの傷だ。

しかし、当の彼女は、

「こんなにしたのに、わたし生きてるよ？ これどついう意味分かる？」

つまり彼女はこう言いたかったんだろう。

「わたし、『不死』になっただんだ！」

それからというものの、『不死』の彼女はやることなすこと全てが死

と隣合わせになっていた。
信号機が赤になってから横断歩道を走り、何回も車に轢かれていた。カナヅチなのに、25Mプールで息継ぎ無しで泳ぎまくっていた。テレビを見て懂れて、指の間を包丁で行き来して刺さっていた。ショートカットだと言って、四階から何回も飛び降りていた。やめとけといわれたのに、ドライアイスを顔にかけていた。ここに書くのさえ嫌になる、そんなことも多々していた。見るのも嫌になるような傷や怪我が増えていた。そんな彼女は……
今、

実験動物となっていた。

彼女の『不死』を証明する行動の数々が、多くの研究者の目に留まり、ある研究所に連れて行かれた。

今、『不死』の彼女が何をしているのかは知らない。『不死』と『不老』を分け合ってから、もう80年も経っているのだから。

少なくとも分かるのは、『不死』の彼女は今、97歳の老人だということだけだ。

死を迎えぬまま、いつまでも生き続ける。死ぬ事の無い、世にも珍しい実験動物として……

そんな私もまた、実年齢97の、見た目17歳の老人だ。

今になってなぜコレを書いているのかと言えば、この出来事に関わった。出来事の発端になった女の子に出会ったからだ。

80年前と変わらぬ私を見た、そちらも見た目に変化の無い女の子は、

「やっぱりどつちかだけじゃなくて、どつちも、が良かったよね」
それだけ言っつて、消えてしまった。

あの子が何者なのか、今となって考えるのは遅い、見た目は高校生

の私の体は97歳のそれが招いた病に蝕まれている。正直、いつ逝くか分からない中、これを書いている。

ただ この言葉を

言いたくて

もしも

あなたなら

『不老』

と

『不死』

どちらが

いいで

(後書き)

迷鳥の迷い路話、ちよくちよく書いていく予定です。
楽しめるか定かではありませんが、感想いただけたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3865p/>

『不老』か『不死』

2010年12月14日22時26分発行